

琵琶湖総合保全整備計画
マザーレイク 21 計画
＜第 2 期改定版＞

思いをつなぎ、命をつなぐ。
母なる湖のもとに



滋賀県

マザーレイク 21 計画とは…

琵琶湖は、水資源としてだけでなく、豊かな生態系を育み、その周りに住む人たちによって固有の文化や景観が形成されるなど、多様な価値を持っています。高度経済成長期を経て、私たちは安全・安心で便利な暮らしを手に入れました。しかしその一方で、普段の暮らしの中で川や琵琶湖との関わりが薄くなり、身近な生態系の変化に気付くことが難しくなっていました。

こうした反省から、滋賀県では、国の6つの省庁*が平成9年度(1997年度)から2カ年にわたり共同で実施した「琵琶湖の総合的な保全のための計画調査」をふまえて、琵琶湖を健全な姿で次世代に引き継ぐための指針として、平成12年(2000年)3月に、琵琶湖総合保全整備計画(マザーレイク21計画)を策定しました。

*国土庁・環境庁・厚生省・農林水産省・林野庁・建設省(1999年3月当時)



計画が新しくなったよ。

段階的な計画目標

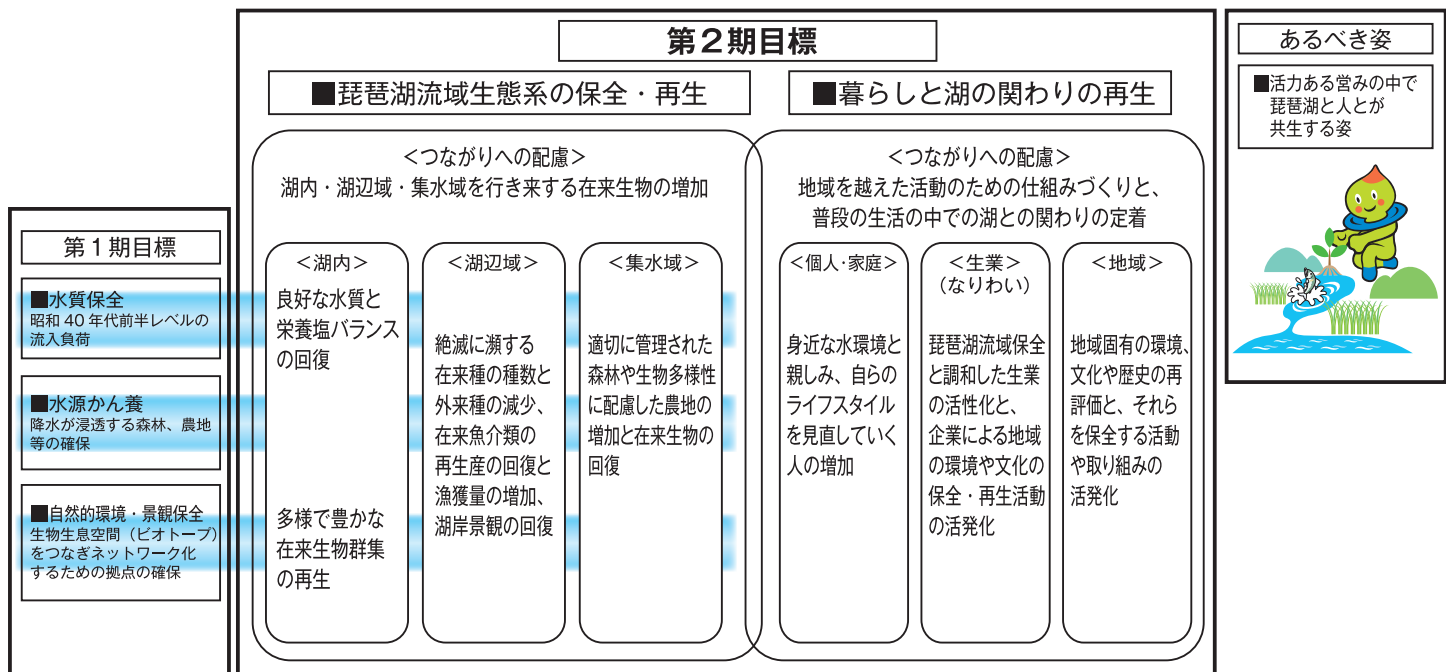
マザーレイク21計画では、2050年頃の琵琶湖のあるべき姿を念頭に、平成11年度(1999年度)から平成22年度(2010年度)までを第1期、平成23年度(2011年度)から平成32年度(2020年度)までを第2期として、琵琶湖を保全するための幅広い取り組みを進めています。

今回、第2期の開始に当たって計画の改定を行い、2010年度までの第1期計画期間の評価をふまえて第2期計画期間の目標を設定しました。

長期計画なので、現時点では予測できない環境や社会の変化が起こることも考えられます。このため施策の効果を把握・評価し、それらをもとに見直しを行う仕組みを取り入れるなど、柔軟な計画としました。



計画を見直し
ながら目標達成を
目指すんだね。



1999年度

2010年度

2020年度

2050年度

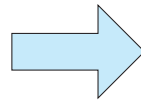
第1期

第2期

将来・長期

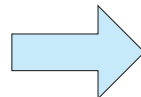
第2期改定版のポイント

琵琶湖とその集水域はつながっており、全体で一つの生態系を形作っています。
このことから、第1期で設定した3つの柱である「水質保全」「水源かん養」「自然的環境・景観保全」を、生態系の保全・再生の視点から一つのシステムとして捉え、取り組みを進めていきます。
また、取り組みを進める上では、私たちの暮らしを見直すことが必要であり、暮らしの中で湖への関心や理解を深めていきます。



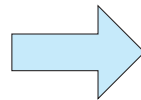
① 新たな計画の方向性

目標の達成の度合いは、次の2種類の指標を用いて評価します。
一つめは、事業や施策がどれだけ進んだかを表す指標(アウトプット指標)です。
二つめは、水質や湖魚料理を食べる人の割合など、事業や施策に取り組んだ結果現れる琵琶湖の環境や社会の状態を表す指標(アウトカム指標)です。



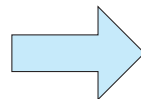
② 2種類の評価指標

目標の達成に大きく貢献することが期待でき、関連機関が連携することでさらに効果を高めることができる事業・施策を重点プロジェクトに位置づけて取り組みます。



③ 重点プロジェクト

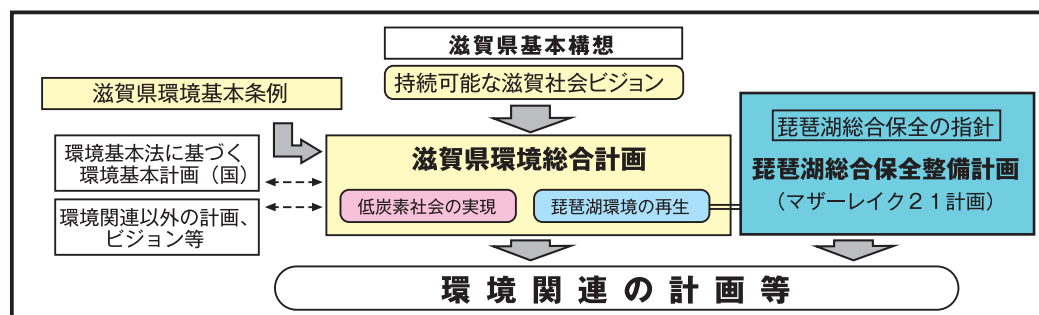
県民、事業者、専門家、市町、県などが分野を超えて交流できる場として「マザーレイクフォーラム」を設置します。マザーレイクフォーラムは計画の進行管理を行い、評価・提言をする場でもあります。



④ マザーレイクフォーラム

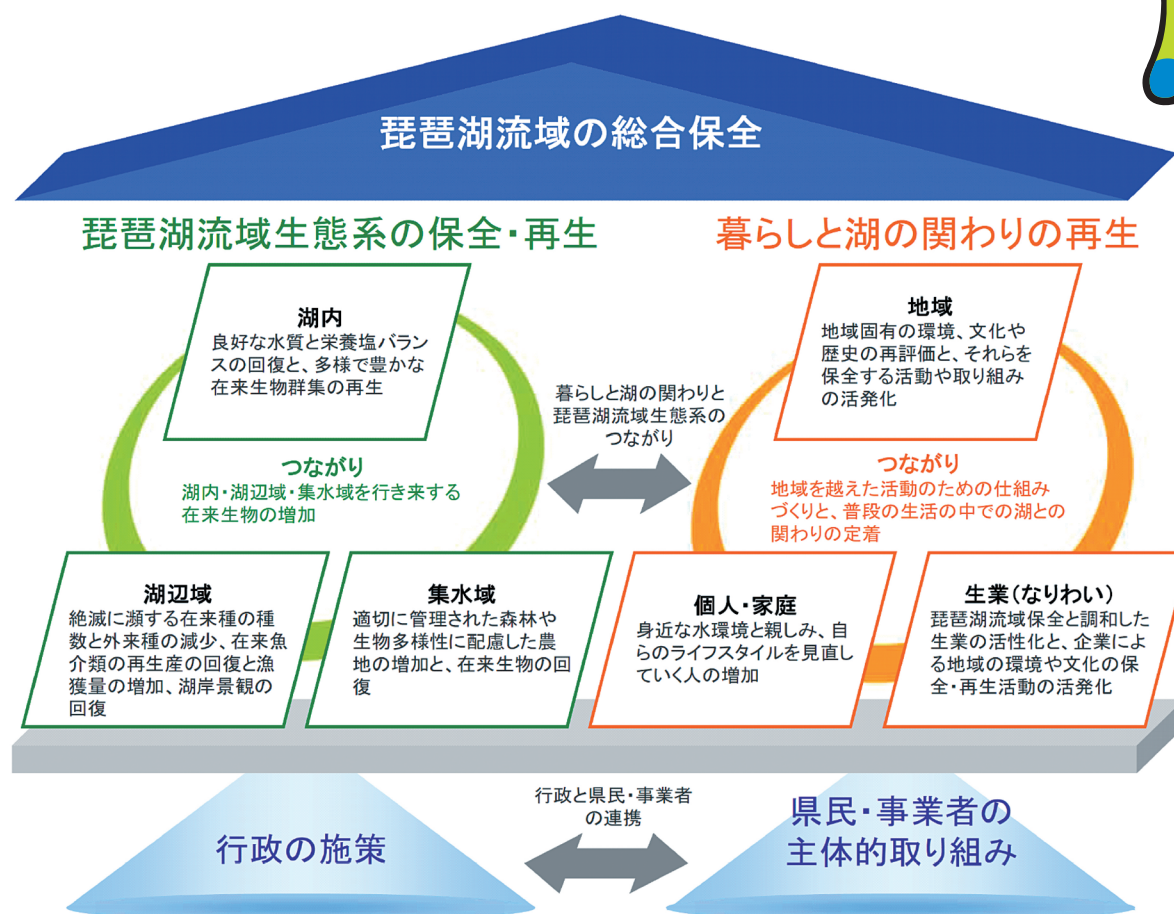
○マザーレイク 21 計画と滋賀県基本構想など、他の計画との関係

マザーレイク 21 計画は、滋賀県環境総合計画とともに県の環境保全に関する様々な計画の上位に位置しています。



① 新たな計画の方向性

人の暮らしは琵琶湖とつながっているんだね。



第2期では、琵琶湖とその集水域全体を一つの系(システム)として捉えます。

森から里へ、そして湖へと流れていく水がもたらす様々な恵みが、安定して持続的にもたらされるよう、第1期で設定した「水質保全」「水源かん養」「自然的環境・景観保全」の三つの柱を「琵琶湖流域生態系の保全・再生」としてまとめ、一体的に取り組めます。

取り組みに当たっては、琵琶湖流域を「湖内」「湖辺域」「集水域」の3つの場に分け、それらの「つながり」と合わせてそれぞれに目標と指標を設定します。

また、私たち人間も琵琶湖流域生態系の一員です。したがって、琵琶湖流域生態系の保全・再生のためには、湖への関心や理解を深め、自分自身の暮らしのありようを見直し、ライフスタイルを変えることが必要です。このことから、第2期では新たな柱として「暮らしと湖の関わりの再生」を位置づけます。

取り組みに当たっては、「個人・家庭」「生業(なりわい)」「地域」の3つの段階に分け、それらの「つながり」と合わせてそれぞれに目標と指標を設定します。